

特別企画：2016年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

コープさっぽろが首位を堅持

～上位50社の売上高合計は1兆1836億2500万円、前年度比2.8%増～
はじめに

道内のスーパーストア業界は、消費人口の伸び悩みが続くなかで、顧客獲得競争は一段と厳しさを増している。この間、大手業者は合併も含めた経営統合や再編を進めることでスケールメリットを追求するほか、商品ライン、アイテムの充実に加えて在庫統制の徹底や、新規出店や同業者からの店舗の承継、リニューアルなどにより営業基盤の維持・拡大を図っている。大手による系列化や寡占化が進む一方で、中小・零細規模のスーパー経営業者を取り巻く経営環境に厳しさが続いている。

帝国データバンク札幌支店は、企業概要ファイル「COSMOS2」（登録社数147万社）を対象に、2016年度（2016年4月期～2017年3月期）に決算を迎えた道内企業（約7万社）から、スーパーストア経営業者を抽出、売上高ランキング（不動産賃貸収入等を含む）を作成した。なお、売上高は推定値を含む。

～調査対象～

1. 原則として生鮮3品を扱い、セルフサービス方式を採用する法人
2. 北海道内に本社を置きスーパーストアを展開する法人
3. 北海道内に本社を置き店舗展開する生活協同組合（大学生協を除く）
4. 売上高は不動産賃貸収入等を含み、店舗数は上記の対象店舗とする

調査結果（要旨）

1. 2016年度のランキング第1位は、売上高2884億3200万円の（生協）コープさっぽろ。2位はイオン北海道、3位はラルズで前年と変わらず、上位10位までのランキングに前年度と変わりはない。
2. グループ別売上高では、イオングループが店舗数167、売上高合計3263億7600万円で2年連続して第1位に。第2位はアークスグループ、第3位は（生協）コープさっぽろ及び業務提携する（有）魚長のグループ。
3. 上位50社の売上高合計は前年度比2.8%増の1兆1836億2500万円。上位10社の売上高合計は1兆257億5300万円で前年度比4.9%増。上位50社の増収企業（横ばい含む）は23社、減収企業は27社。

1. 売上高ランキング ~ 第1位はコープさっぽろ、2位はイオン北海道

ランキング第1位は(生協)コープさっぽろで、売上高は2884億3200万円(前年度比3.8%増)を計上、ランキング対象とした2007年度から10年連続での首位となった。第2位は売上高2031億7300万円のイオン北海道(株)。2015年9月に(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継した。3位はアークスグループの中核、(株)ラルズで売上高1270億2500万円。4位のマックスバリュ北海道(株)は前期比12.3%増の売上高1232億300万円を計上した。2015年9月に(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗、10月に(株)いちまるのスーパーストア14店舗を承継した。

(株)ホクレン商事は前年度比1.7%増の664億2700万円の売上高で5位にランキングされた。

1位から10位までの顔ぶれは前年度と変わりなかった。

2016年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

(金額:百万円)

順位	前年順位	法人名	所在地	店舗名	店舗数 (決算時)	決算期 (月)	2016年度 売上高	2015年度 売上高	伸び率(%)
1	1	(生協)コープさっぽろ	札幌市	コープさっぽろほか	108	3	288,432	277,906	3.8
2	2	イオン北海道(株)※1	札幌市	イオンほか	76	2	203,173	188,178	8.0
3	3	(株)ラルズ	札幌市	スーパーアークスほか	72	2	127,025	119,309	6.5
4	4	マックスバリュ北海道(株)※2	札幌市	マックスバリュほか	91	2	123,203	109,723	12.3
5	5	(株)ホクレン商事	札幌市	ホクレンショップ ほか	66	3	66,427	65,322	1.7
6	6	(株)東光ストア	札幌市	東光ストア ほか	29	2	46,924	47,217	▲0.6
7	7	(株)道北アークス	旭川市	スーパーチェーンふじ ほか	43	2	46,291	46,439	▲0.3
8	8	北雄ラッキー(株)	札幌市	ラッキーほか	33	2	44,252	44,614	▲0.8
9	9	(株)福原	帯広市	フクハラ ほか	44	2	43,353	43,787	▲1.0
10	10	(株)ダイイチ※3	帯広市	ダイイチ	22	9	36,673	34,943	5.0
11	11	(株)道南ラルズ	函館市	ラルズマート ほか	17	2	24,297	23,508	3.4
12	14	(株)道東アークス※4	北見市	ラルズマート ほか	14	2	20,013	19,935	0.4
13	12	(株)北海道ジェイ・アール・フレッシュユネス・リテール	札幌市	JR生鮮市場	9	3	18,200	17,800	2.2
14	13	(株)豊月	苫小牧市	フードD	13	1	16,388	16,915	▲3.1
15	15	(有)魚長	函館市	生鮮夢市場 ほか	19	2	11,829	12,312	▲3.9
16	16	(株)津司	札幌市	卸売スーパー	8	4	11,000	11,050	▲0.5
17	18	(株)東武	中標津町	東武サウスヒルズ ほか	2	1	5,900	6,200	▲4.8
18	22	(株)ダイゼン	鷹栖町	DZマート	14	9	4,308	4,058	6.2
19	26	(株)モリワキ	札幌市	北海市場	6	12	4,297	3,480	23.5
20	24	(株)ホクノ	札幌市	ホクノスーパー	6	7	3,712	3,696	0.4

※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継

また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

※3 (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

※4 (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更。

2015年度の売上高は(株)道東ラルズと(株)篠原商店の合算数値

2. グループ別売上高 ～イオングループが3034億7700万円で2年連続してトップに

グループ別売上高では、イオン北海道(株)とマックスバリュ北海道(株)のイオングループの2社が、店舗数167、売上高合計は前期比7.5%増の3263億7600万円で2年連続してトップとなった。イオン北海道(株)は前年度の2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継、またマックスバリュ北海道(株)は前年度の2015年9月より(株)ダイエーの食品スーパー7店舗、10月より(株)いちまるのスーパーストア14店舗をそれぞれ承継している。アークスグループ(道内本社6社)は店舗数219、売上高合計は前期比2.6%増の3079億300万円で第2位となった。

(生協)コープさっぽろ及び業務提携先の(有)魚長(函館市)のグループは、店舗数127、売上高合計は同3.5%増の3002億6100万円で第3位となった。

2016年度(2016年4月～2017年3月)大手3強の売上高

●イオングループ売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2015年度	2016年度	伸び率 (%)
イオン北海道(株)※1	76	188,178	203,173	8.0
マックスバリュ北海道(株)※2	91	109,723	123,203	12.3
(株)いちまる	-	5,576	-	-
合計	167	303,477	326,376	7.5

※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの食品スーパー7店舗を承継。

また同年10月より(株)いちまるのスーパーストア14店舗を承継

●アークスグループ売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2015年度	2016年度	伸び率 (%)
(株)ラルズ	72	119,309	127,025	6.5
(株)東光ストア	29	47,217	46,924	▲0.6
(株)福原	44	43,787	43,353	▲1.0
(株)道北アークス	43	46,439	46,291	▲0.3
(株)道南ラルズ	17	23,508	24,297	3.4
(株)道東アークス※1	14	19,935	20,013	0.4
合計	219	300,195	307,903	2.6

※1:(株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更

2015年度の(株)道東アークスの売上高は(株)道東ラルズと(株)篠原商店の合算数値

●(生協)コープさっぽろ及び業務提携先売上高

(単位:百万円)

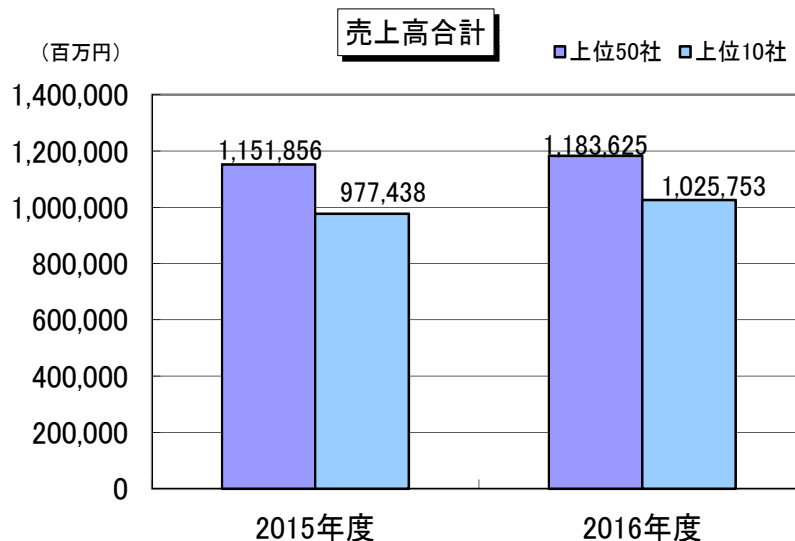
企業名	店舗数	2015年度	2016年度	伸び率 (%)
(生協)コープさっぽろ	108	277,906	288,432	3.8
(有)魚長	19	12,312	11,829	▲3.9
合計	127	290,218	300,261	3.5

3. 上位50社売上高合計 ~1兆1836億2500万円で前年度比2.8%増

売上高ランキング上位50社の売上高合計は、1兆1836億2500万円で前年度比2.8%増加した。

上位10社の売上高合計は、50社合計の86.7%を占める1兆257億5300万円で、2015年度の上位10社の売上高合計9774億3800万円に比べ4.9%増加。上位50社に占める10社の売上高合計の構成比は84.9%から86.7%へと1.8ポイント上昇した。

売上高が前年度比増収（横ばい含む）の企業は50社中23社、減収企業は27社となり、減収企業の数が上回った。



4. トップ10企業の動向

スーパーストア売上高ランキング推移(2007年度～2016年度)

順位	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
1	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ
2	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱	イオン北海道㈱
3	㈱ラルズ	㈱ラルズ	㈱ラルズ	㈱ラルズ	㈱ラルズ	㈱ラルズ	㈱ラルズ	㈱ラルズ	㈱ラルズ	㈱ラルズ
4	㈱札幌東急ストア	マックスバリュ北海道㈱	マックスバリュ北海道㈱	マックスバリュ北海道㈱	マックスバリュ北海道㈱	マックスバリュ北海道㈱	マックスバリュ北海道㈱	マックスバリュ北海道㈱	マックスバリュ北海道㈱	マックスバリュ北海道㈱
5	マックスバリュ北海道㈱	㈱ホクレン商事	㈱ホクレン商事	㈱ホクレン商事	㈱ホクレン商事	㈱ホクレン商事	㈱ホクレン商事	㈱ホクレン商事	㈱ホクレン商事	㈱ホクレン商事
6	北雄ラッキー㈱	㈱札幌東急ストア	㈱東光ストア	㈱福原	㈱東光ストア	㈱道北アークス	㈱道北アークス	㈱道北アークス	㈱東光ストア	㈱東光ストア
7	㈱ホクレン商事	北雄ラッキー㈱	北雄ラッキー㈱	㈱東光ストア	㈱福原	㈱東光ストア	㈱東光ストア	㈱東光ストア	㈱道北アークス	㈱道北アークス
8	㈱福原	㈱福原	㈱福原	北雄ラッキー㈱	北雄ラッキー㈱	㈱福原	㈱福原	㈱福原	北雄ラッキー㈱	北雄ラッキー㈱
9	㈱ダイイチ	㈱ふじ	㈱ふじ	㈱ふじ	㈱ふじ	北雄ラッキー㈱	北雄ラッキー㈱	北雄ラッキー㈱	㈱福原	㈱福原
10	㈱ふじ	㈱ダイイチ	㈱ダイイチ	㈱ダイイチ	㈱ダイイチ	㈱ダイイチ	㈱ダイイチ	㈱ダイイチ	㈱ダイイチ	㈱ダイイチ

[注1] (生協)コープさっぽろは2007年度からランキング対象

[注2] ㈱札幌東急ストアは2009年11月に㈱東光ストアへ商号変更

[注3] ㈱ふじは2012年7月に㈱道北ラルズと合併し、㈱道北アークスへ商号変更

[注4] イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

[注5] マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継

また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

[注6] (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

(生協) コープさっぽろは、本郷店（現・ほんどおり店）と琴似二十四軒店を新築移転したほか、一部既存店舗の改装実施を行った。また、生産ラインの強化と売場を拡充した惣菜類の充実などが奏功して来店客数が伸張。店舗事業は前期比2.5%増の1902億7400万円と伸展。宅配事業と共済・保険事業などを併せた総売上高は前期比3.8%増の2884億3200万円を計上した。

イオン北海道(株)は、食品部門では、顧客ニーズに合わせて少量パックやカット野菜など簡易商材の品揃え拡大、惣菜量り売りバイキングの導入店を増やしたほか、オーガニック商品や機能性食品を増やした。また、衣料品部門では靴部門のほか、旭川西店、札幌苗穂店で導入したキッズ共和国などの効果により、トイ・ホビーやベビー関連の商材が伸長した。売上高は前期比8.0%増の2031億7300万円を計上した。

(株)ラルズは、主力の食料品、酒類が全体を牽引。他社と連携した「青函圏食と観光活性化連携」効果や2016年2月に譲り受けした(株)丸しめ志賀商店の店舗売り上げが通年で約72億円プラスされたこともあり、売上高は前期比6.5%増の1270億2500万円を計上した。

マックスバリュ北海道(株)は、前期に(株)ダイエーと(株)いちまるから承継したうちの4店舗のほか、既存店舗も含めて合計20店舗の改装を行い集客アップに努めた。店舗別では、マックスバリュ店舗においては毎月はじめに開催する「はじめの市」を、ビッグ店舗においてはテレビコマーシャルを導入し「ザ・ビッグデー」の強化を行った。売上高は前期比12.3%増の1232億300万円を計上した。

(株)ホクレン商事は、期中に「ホクレンショップ七飯店」「エーコープ納内店」の2店舗を閉鎖するなど店舗数は減少したものの、各店舗ともに生鮮品を充実させ、特に精肉では高品質な商品を提供したことで新規顧客の取り込みを行い、リニューアルオープンした店舗では顧客数が増加した。売上高は前期比1.7%増の664億2700万円を計上した。

(株)東光ストアは、主力の生鮮品については、割引セールの実施などで来店者数は前期並みを維持し、特に鮮魚部門では生産地や鮮度にこだわった商品やブランド品の扱いを増やしたことで、高価格帯の商品は堅調に推移した。また、アークスグループで提供しているプライベートブランドのCGC商品の売れ行きも順調に推移した。しかし、同業他社との競合などで1人当たりの客単価がやや落ち込みを見せたことから、売上高は前期比0.6%減の469億2400万円となった。

(株) 道北アークスは、旭川市を中心とする道北地区の商圈人口が減少を辿るなか、競合店との競争が激化。こうしたなか集客アップに向け、前期中に開設した小型店舗「Da*マルシェ」4店舗の売上高が通年分となった。しかし、大型店の減収分をフォローするまでには至らず、売上高は前期比0.3%減の462億9100万円となった。

北雄ラッキー (株)は、食料品、衣料品、住居品など各商品別の販売状況はいずれも減収を辿った。前期や期中に開設した新規店舗が通期での売上高に寄与したものの、既存店舗の閉店もあって売上高は前期比0.8%減の442億5200万円の計上となった。

(株) 福原は、商品構成にこだわり既存店6店舗のリニューアルを行ったが、その間において閉店を余儀なくされたほか、2016年8月末に発生した台風10号の影響もあって以降の来店客数は前年同期を下回って推移した。売上高は前期比1.0%減の433億5300万円となった。

(株) ダイイチは、2015年4月にオープンした「恵み野店」(恵庭市)の通年稼働や同年6月の「めむろ店」の増床リニューアル、2016年7月の「白石神社前店」などのリニューアルが奏功したうえ、(株)イトーヨーカ堂との業務提携により共同の商品開発や販促企画を実施、同業他店との差別化や競争力強化に努めた。売上高は前期比5.0%増の366億7300万円を計上した。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 札幌支店情報部 担当:柳澤、篠塚、香川

TEL 011-272-3933 FAX 011-272-3934

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。